

茂原市協働のまちづくり推進懇話会 会議概要（会議録）

令和2年2月7日（金）13時～

茂原市役所5階503会議室

1. 開会
2. 協働のまちづくり推進事業の進ちよく状況について
3. 意見交換
4. 閉会

開会 (事務局 石井)

あいさつ (市民部次長兼生活課長 地引)

協働のまちづくり推進事業の進ちよく状況について
資料に基づき報告 (事務局 風戸)

意見交換 別紙のとおり

茂原市協働のまちづくり推進懇話会 意見交換概要

- （関谷座長）令和元年度の協働のまちづくり推進事業の進ちょく状況についてご報告いただいた。実に多様な取り組みがなされていることが改めて確認できた。ただいまのご報告について、皆さんからご意見やご質問等あればお伺いしたい。
- （西條委員）いろいろな団体がいろいろな立場で、さまざまな取り組みをしていることがよくわかった。大変結構なことだが、考え方がばらばらであってはいけない。私たちは市民であるから、市民生活を送る上では、市政との関係も重要である。皆さんの共通の思いや意見が、どこかに集まって一緒に見られるような仕組みや集まりが必要だと思う。
- 先ほど説明があったように、地域には、自治会や社会福祉協議会、民生委員など、さまざまな団体があり、見守り活動に取り組むなど、似通った部分もある。それらがお互いにどのような取り組みをしているのかを知り、活動する中での苦労話などを聞き、共通の認識を持とうという意見が出て、4 団体で情報交換会を開催することとなったものである。
- 今、団体は全部でどれくらいあるのか。
- （事務局 風戸）認定市民活動団体は、24 団体である。
- （西條委員）皆さんがそれぞれ意見を持っていると思うが、そういった団体が、一つのテーブルに着いて話し合いを持つということが重要である。一覧表を見ながら、意見を交換し、問題を認識できるような簡便な方法はないだろうか。一度、大会合を開いてみてはどうか。
- （事務局 風戸）4 団体の交流会は、今年度初めて実施した。西條委員は自治会長連合会の会長という立場と、社会福祉協議会では副会長という立場をお持ちであり、両方の団体をよくご存じである。
- 交流会の企画は、社会福祉協議会の会合の中で発案されたと聞いているが、来年度以降もぜひ実施していこうという話になっている。去年は社会福祉協議会が音頭を取ったので、次回は自治会長連合会が音頭を取ってほしいと言われている。来年度は、自治会長連合会が主導して実施してまいりたい。
- また、市民活動団体の交流会については、月 1 回の定期的な集まりを持っている。

四街道市では、自治会と市民活動団体の交流の機会を設けていると伺ったことがあるので、参考にさせていただきたい。今後は、「地域」を軸に結成されている「地縁団体」と、「志」を軸に結成されている NPO などの「志縁団体」が織り成すことが重要であると考えているので、四街道市の事例を参考に、自治会情報交換会のようなものを企画してまいりたい。

- （塚崎委員）ただいまのご意見と関連するか分からないが、地域の集いの場であるコミュニティカフェを運営している団体には、自治会を母体に行っているものや市民活動団体など、さまざまなものがある。
- 高齢者福祉課の地域包括支援室が音頭を取って、2 回ほど集まる機会があった。やはり、全く同じ課題が出ており、地域をどのようにしていくのか、いろいろな方がいろいろな思いで取り組んでいる。
- 交流する機会を、1 回だけではなく、何度も開催してほしいという声が挙がり、先日 2 回目が行われたところである。市内に 4 か所ある地域包括支援センターごとに、それぞれの地域で集まって交流した。地域の課題について話し合ったが、本納地域では高齢化率が 37%ほどになっており、高齢者の引きこもりや孤立、そこから派生する交通手段のなさが問題であり、福祉施設との連携を取りながら、何かやっっていこうという雰囲気になってきた。
- 話を進めていくと、自治会や地区社協、民生委員など、すでに活動をしている方たちとの連携が必要になってきているということになった。地域包括ケアシステムを構築していくという話の中でも進んでおり、行政と一緒に取り組むという流れになっているので、とても期待している。
- （西條委員）本納地区の場合は、地区社協が中心になってサロン事業を展開している。さらに、精神障害を持つ人たちを支援する NPO があるが、参加している人たちが地域で孤立してはいけないということで、自治会や地区社協などが一丸となって見守ろうということになった。
- 地域として、仲間に入れてみんなで取り組もうという機運が高まってきている。歌を歌うことを主として取り組んでおり、それだけであるが、会長自らが歌を歌って場を盛り上げてくれている。
- ぜひ、皆さんがいろいろな場に参加していただきたい。私も市のいろいろな組織に

顔を出しており、38 団体ほどある。いろいろなところに顔を出すと、周りが見えてくる。それらを参考にして、市にいろいろな意見を出すことができる。

- （高信委員）自治会長連合会とはどんな団体か。
- （西條委員）現在、市内には 240 の自治会があり、それらが 10 の地区連合会にまとまっている。それらをさらに一つに束ねたものが茂原市自治会長連合会である。
- 自治会には、市民の約 6 割が加入しており、市内の約 40,000 世帯のうち約 24,000 世帯が仲間として参加している。
- 農村地帯や街中、団地など、自治会にもいろいろある。例えば、新しくできた団地には外から引っ越してきた人たちが集まっているが、昔から住んでいる人たちとは肌が合わず、自分たちだけで自治会を結成した事例もある。トータルとしては、地域に二つの自治会が存在することになってしまう。
- また、街中で一つのマンションで自治会を結成しているところがあったが、役員のなり手が無いという理由で解散した。マンションであるから、自治会がなくても暮らしは成り立つのであろうが、外とのつながりは全くなくなってしまう。
- （高信委員）私は生まれてからずっと茂原市で暮らしてきたが、自治会は大変なご苦労があるのだと思う。子どもの頃はわからなかったが、子ども会を立ち上げ、役員を務める中で、先に立って道筋を建ててくれる人が必ずいた。
- 昔は、身体が不自由な子どもがいても、みんなで助け合っていたから、安心して大人になることができた。誰かが先にやってくれれば、参加するという人もいる。
- （西條委員）人と人との関係は、自治会だけに限らず、難しいものになっている。基本は、「向こう三軒両隣」であり、地域で安全・安心な暮らしをしたいのであれば、まずは近隣が仲良く努め、地域が良くなれば、隣の地域も良くなっていくと思う。連合会は、そのような思いを一つにして、各地域で取り組むものであり、決して命令する関係にはない。
- （高信委員）昨年は台風の被害が大きかったが、決して他人事ではない。災害は忘れたころにやってくる。明日は我が身であると感じた。私の地域は被害が少なかったが、茂原市に住んでいるということで、年賀状で身を案じてくれた人がたくさんいた。地球温暖化が進行しており、先が見通せない。
- （丸岡委員）地域まちづくり協議会について、具体的に想定している区域や団体は

あるのか。行政側で、地域まちづくり協議会を作るようにどんなアプローチをしているのか。報告書に書いてある「地域まちづくり協議会設立支援講座」がそのうちのひとつだと思うが、それ以外の取り組みはあるか。

- （事務局 風戸）自治会長連合会には、10 か所の地区連合会がある。一つの小学校区に一つの地区連のところもあるし、複数の小学校区がまたがっている場合もある。
- 茂原市の中心部については、一つの地区連合会の中に小学校が複数存在しているが、地区社会福祉協議会や学区の範囲が少しずつずれており、まとめるのが難しい。
- 以前から、どこかの団体に揃えたほうが良いのではないかという議論があったが、それぞれの組織がそれぞれの地区で取り組んでおり、過去からの経緯もあるため、揃えることがなかなかできずにここまで来ているのが実情である。
- 現在、地域まちづくり協議会が設置されている豊田・五郷・東郷については、ほぼ一つの地区に一つの小学校区となっている。他の地域では、鶴枝・中の島地域もそうであるが、二宮地域など、いわゆる昭和 27 年の「昭和の大合併」以前に存在していた村の単位がまとまりやすいのではないかと思う。まとまりやすいところからまとめていくのが良いのではないかと考えている。
- 最後に茂原市の中心部をどうするのかという議論は残ってしまうが、まとまりやすいところからまとめてまいりたい。その一例として、鶴枝・中の島地域には講師を派遣してまいりたい。
- 本納・新治・豊岡も、合併以前の町村単位である。この 3 地区は、中学校区で言えば 1 つであるが、小学校 1 校につき 1 協議会しか認めないということでは決してなく、地域の皆さんがまとまりやすい、大きい枠組みの方が良いということであれば、そのようにしていただいて構わない。
- 先ほど、塚崎委員から 4 つの地域包括ケアシステムの圏域についてお話をいただいたが、4 圏域でいうと「ほんのう」「ちゅうおう」「もばら」「みなみ」になる。整合性をとることは一概には難しいが、いろいろな部署からいろいろなアプローチをした上で、地域で同じような悩みを抱えている団体があれば、連携してもらえりような枠組みを作ってもらえりよう、まとめてまいりたい。
- （丸岡委員）福祉関係団体交流会には私もたまたま参加したが、今までそのような

機会があまりなかった。特に、長寿クラブの人たちとの関わりがなかったため、話をする事ができなかった。なかなか良いきっかけとなった。あのような取り組みを今後も発展的に実施する中で、地域まちづくり協議会の枠組みなどについても、うまく活用できればと思う。

- 自治会の加入率が年々低下しているとお話だが、私たちの地域も役員が毎年交代するので、地区の連合会長がとても苦勞なさっているのではないかと思う。
- 一方では、自主防災組織を作ろうとする動きがあるので、うまくジョイントできると良い。自治会役員が頻繁に変わる自治会では、総論は賛成だが個別具体的になるとそうではないと思う。自治会役員が変わっても、自主防災組織は変わらないような構成ができればよい。
- （西條委員）自治会長の任期はバラバラであり、地域で安全・安心な環境を作るために仲良くやろうとなると、輪番制になる。
- 本納地区連合会では、21自治会のうち16自治会が1年で交代してしまう。2年制の自治会も1つしかない。毎年自治会長が替わってしまうと、総会をやっても新しい自治会長が出てきて何も分からないので、協力し合おうといっても何を協力してよいのか分からない。
- 地域では、祭礼が中心となって自治会が結成されている場合が多い。祭礼費用を自治会の会費と一緒に集めると、環境美化のためではなくお祭りに使われてしまうという疑念を生んでしまう。
- 祭りは好きな人だけで行い、自治会を分割して新しく作り直したところ、うまくいったところもある。立場が異なるので、分けて、現状に合わせて、適切に取り組むべきと考える。
- 新しくできた自治会は、年度を4月から3月にしているが、古くからある自治会では1月から12月までにしているところがある。12月までで任期が終わってしまったところは、地区連合会の役員が1月から4月まで空欄になってしまう。年度に合わせるよう求めているが、なかなか難しい。いろいろな機会を通じてお互い顔を合わせることで、話し合うチャンスが多ければ多いほどよい。
- （鈴木委員）豊田地区は、本納地区と茂原地区のちょうど中間に位置している。13自治会で地区連合会を結成しているが、すべてが豊田小学校区ではなく、萩原

小学校区の地域もある。13自治会のうち、1つ半くらいが萩原小学校である。

- 最大の行事である地区民体育祭には1,300人ほどが集まるが、そもそもの発端は昭和61年ごろに新しい住民と以前から住んでいた住民の交流の機会を何とかして作ろうと考え、当時の連合自治会長や地区社協、育成会の役員の皆さんが話し合っ、みんなが集まる世代交流型の運動会を行うこととしたものである。当初は1つの小学校区だったが、その後2つに分かれてしまったので、やりづらい部分もある。
- 地区民体育祭の際に、長生郡内や県内の大会で1~3位までに入賞した子どもを表彰しており、事前に小中学校へ入賞者を推薦してもらっているが、学区が分かれているので、やりづらい部分がある。
- 豊田地区は、人口が約7,900人、世帯数が約3,300世帯であり、1,900弱の世帯が自治会に加入しているので、加入率としては53%ほどになっている。数年前から右肩下がりの状況が続いており、どう食い止めるかが難しい。
- 地区内に新しいゆたか区画整理組合の地域ができ、子どもたちが少しずつ増えているが、新しく転入してくる世帯は自治会に入らない傾向がある。
- 自治会に少しでも加入していただこうと、昨年は中止となってしまったが、地区民体育祭には自治会非加入世帯の子どもも招待してパン食い競争に参加してもらおう予定であった。自治会に入っていない世帯にも、子どもを通して自治会の存在意義をPRできると思う。残念ながら大雨災害のため中止となってしまったが、来年度はまたチャレンジしてみたい。
- （牧委員）この懇話会委員も今年の3月で第1期の任期が間もなく終わるとのことだが、最初は市民活動とはいったい何だろうと思い、参加させていただいた。
- 事務局からも説明があったように、市民活動支援センターは、外房地域では茂原市が最南端であり、以前はなかった活動拠点ができたとすることが大きな成果であると思う。市民活動が活発な地域は、活性化している地域である。そのためにどうしたらいいかと考えていたが、生活課の職員がとても協力的に資料を作ったり、人を集めてくれたりした。
- 毎月の「まちびとカフェ」で集まって話をするこも、少しずつ認知されてきているが、今後もっと告知していけば、いろいろな人たちが集まって意見交換ができると思う。

- 自治会の問題もそうだが、世代が変わってきている。市民活動の中で、コミュニケーションをとっていくツールの一つとして、市民活動支援センターという拠点で集まることを年に何回か企画していただければ、もっと市民が自分たちで行政と関わるという輪が広がっていくと思う。
- （関谷座長）センターが立ち上がったばかりということだが、今は直営として立ち上げて、今後はどういう展望のもとに動いていくのか。
- （事務局 風戸）将来的には、公設民営が望ましいと考えている。市民の力をお借りして、NPO や委託、指定管理など、いろいろな方法が考えられる。市民活動支援センターのあり方に関する提言書でも、そのように提言いただいたし、基本方針としてもそう考えている。
- （関谷座長）どう運営していくかについては、いろいろな可能性があり得る。市民活動団体が交わるような交流の場を作っていく企画の立案などが求められている。
- 早期に市民活動支援センターを立ち上げたところは、転換期に直面している。狭い意味での NPO しか対象にしていなかったり、事実上、スペース貸しとチラシの配架のみであったりするなど、形骸化しているところも見受けられる。
- 四街道市や白井市、富里市などは、少しずつ改革を打ち出し始めていて、特定の領域の人たちだけでなく、立場を超えて交流する動きになってきている。茂原市の場合は、新しく立ち上がったものであるから、第 1 ステージで出てきた問題をむしろ乗り越えていくことができると思う。
- センターがどこまでの役割を果たしていくかについて考えたときに、交流の場であることもさることながら、民営化していくことならばなおさらだが、センターがどんどん企画立案をして、イベントやプロジェクトを進めていく機能を持たせていくことがとても重要である。
- 熱心に取り組んでいるところは、地縁団体である自治会と NPO だけでなく、民間企業にも働きかけて、立場を超えた交わり・連携に取り組んでいる。そのためには、情報収集が必要であり、それを踏まえて何が必要かを分析して企画立案する段階に来ている。
- 協働ということ言えば、これまでのセンターは市民活動を応援するという役割を果たしてきた部分が強いが、最近では行政と地域、行政と市民活動団体をもっと積

極的につなぐということをしている。

- 例えば、岡山市では市民活動支援センターを民間団体に委託しているが、そこが案件形成からすべて担っている。困難を抱えた子どもたちという課題があるとするならば、関わる団体を一斉に集めて円卓会議を開き、情報を共有して問題を掘り下げ、何をすべきか、どんな連携が必要かということの議論を重ねていき、政策作りまで一貫して取り組んでいて、とても面白いやり方である。
- 茂原市ではどんなあり方が望ましいのか、これからさらに模索しながら、良い拠点にできるとよい。
- （塚崎委員）まちづくり条例が平成 28 年に施行されて、4 年間でいろいろ進められてきている。これだけ市民が動き出しているということは、自分自身もコミュニティカフェなどに取り組みながら、どんどんつながりが出てきていることからも感じているところである。
- さらに発展させるためにも、センターの愛称としても「まちびと Caffè」として「カフェ」が付いていることから、1 階の旧食堂スペースを提供していただきたい。関谷座長もおっしゃったように、次のステップに進むときである。いろいろな人たちが集まって広がっていく段階であるので、場所があることによって、自ら動き出す人たちが増えていくのではないかと思う。
- まちづくり条例のアクションプランには、市民活動支援センターの設置が位置付けられている。オープンなスペースがあって、団体や個人が自由に使いながらコラボしたり、打ち合わせしたり、集ってみたりすることができるとうよい。
- 生活課の前に相談コーナーがあり、月 1 回のまちびとカフェは市民コーナーを使ってやっているが、あちこちに場所があるのではなく、1 か所にまとめて情報コーナーがあり、活用できる状態を早急にお願いしたい。計画では、31 年度までに設置することとなっている。次の段階として、場所が安定的にあることが、いろんな人が集うことに繋がり、場所が目立つことによって、活用が広がると思う。
- 昼の時間帯に誰でも食事ができることになっているし、別の時間帯に市民が来て使うこともできるが、すべて込みでいいと思う。必要な人が必要なテーブルを集めて会議を開いたり、おしゃべりしたり、打ち合わせしたりできることが望ましい。
- それに加えて、ぜひキッズコーナーを作ってほしい。茂原市は「子どもは宝であ

る」と全面的にうたっている。子育てにやさしいまちづくりを標榜するのであれば、ある程度の広さをもってキッズコーナーを作ってもらいたい。若い人たちが子どもを遊ばせながら打ち合わせしたりできると思う。

- （事務局 地引次長）庁舎の管理は管財課で行っているが、1階の旧食堂スペースの利用については管財課と交渉中であり、市民交流コーナーを設置できるよう検討しているところである。今しばらくお待ちいただきたい。
- （丸岡委員）食堂の活用方法として、それとは別に何か考えていることはあるのか。あのままではもったいない。
- （事務局 地引次長）そのようなご意見を踏まえて、再度交渉してまいりたい。
- （丸岡委員）旧食堂スペースの奥のVIPルームも活用できると良い。外側から入れるようにして、別に借りることができるようになればよいのではないか。
- 庁内委員会は、どのように行われているのか。懇話会との連携はないのか。別建てで議論されているような印象を受ける。
- （事務局 風戸）庁内委員会は若手から中堅の職員を対象に集まってもらっている。今年度に関しては、防災や教育、福祉など、いろいろな団体を所管している各部署から集まってもらった。
- 市民参加や市民協働は、生活課や企画政策課だけでやるものではなく、まちづくり条例ができた以上、市全体で進めていくべきものであるため、庁内委員会は、毎年メンバーを少しずつ変えながら、「市民協働」を理解した上で自分の仕事を進めてもらうような職員を毎年少しずつ増やすことを目的とした組織である。中には、税務など市民参加がなじまない部署もあるが、そのようなところからも参加してもらっている。
- 懇話会との合同会議については、あってもよかったかもしれない。来年度以降、改めてご意見を踏まえて取り組みたい。
- （塚崎委員）まちづくり条例推進アクションプランは、4年ごとに改定していくものか。45ページにわたる資料を拝見したが、とてもきちんと実施計画が立てられており、PDCAサイクルでの評価をしながら進めているという印象を受けた。これは庁内委員会が主体となってやっているのか。
- 懇話会が一部分だけを担うということについて違和感がある。外部評価の仕組みを

考えていくとうたわれている部分もあったので、そのような意味でも懇話会の位置づけを再考願いたい。

- （事務局 風戸）まちづくり条例推進アクションプランに関しては、今のところは外部評価の仕組みはとっておらず、内部での PDCA サイクルになっている。条例の趣旨を踏まえると、外部評価という観点は当然出てくると思うので、ご意見を踏まえ、来年度以降検討させていただきたい。
- （塚崎委員）社会福祉協議会のボランティアセンターでは、ボランティア団体として登録を受けると、ボランティア活動保険の対象となる。市民活動全体としての課題に挙げられているが、市民活動保険制度の整備が急がれる。計画には、「損害賠償事故の補償を行う市民活動保険の加入を検討する」となっていた。
- 私も社会福祉協議会には属さずに市民活動を行っているが、いつも心配なのが保険の問題である。市民活動全体をカバーできるような保険について、予算を使っただけのほうがいいのではないか。
- （高信委員）自治会には防犯組合があり、1年で交代する人もいるが、防犯活動の保険は市で加入してくれている。
- （事務局 風戸）防犯組合については、確かに防犯指導員の保険を市でカバーしている。市民活動保険についても、検討しなくてはならない部分であるが、予算が伴うことであるので、難しいのが実情である。
- （西條委員）自治会長連合会でも最近、自治会活動保険の一括加入に積極的に取り組んでおり、ずいぶん増えてきている。
- （塚崎委員）保険制度の整備による市民活動の広い底支えが必要である。
- （関谷座長）そろそろ時間も来たので、ぜひ発言しておきたいというご意見を伺っておきたい。
- （鈴木委員）先ほど災害ボランティアセンターについての説明があったが、13番目の認定市民活動団体の「千葉県災害対策コーディネーター茂原」に、私も丸岡委員も参加している。
- 今回の災害で、社会福祉協議会が主体となって災害ボランティアセンターを立ち上げたが、私たちの「千葉県災害対策コーディネーター茂原」からも170名ほどが災害ボランティアセンターのスタッフとして参加した。私も14日間くらい参加し

たが、丸岡委員はそれ以上に参加していたと思う。少しでも早く復興できるように、ボランティアのマッチングなどを行った。

- （関谷座長）最後に私からも 1 点だけ申し上げておきたい。学区単位の地域まちづくり協議会は横のつながりをエリアベースで作っておくものであるが、エリアをベースとしているということは、要するに「我々の地域だ」という意識を共有している人たちが色々な連携を図っていくものであり、今後とても期待が高まるものである。
- もう一つ、興味深いと思ったのは、福祉関係団体の交流会である。これは非常に素晴らしい取り組みであり、テーマ型のつながりである。例えば福祉や子育て支援、危機管理、自然環境など、いろいろな活動をされている方々が一堂に会して取り組んでいくもので、重なっている部分もあれば、漏れている部分もある。
- エリア系にしても、テーマ系にしても、既存の取り組みをしっかりと出し合って共有し合うことが大事である。さらには、その中でできていることとできていないことを出し合って、これもまた共有することがとても大事である。
- それを個々の団体にフィードバックしても良いし、連携できることをそこから膨らませていっても良い。そのような動きにしていくことがとても大事であるので、エリア系・テーマ系の集まりのいずれもが大きく膨らんでほしいと思う。
- 特に災害を見ていると、連携が強く叫ばれても、どうしても漏れてしまう部分がある。例えば、昨年の災害で、県南部などは未だにブルーシート張りの家が多く、仮設住宅が建っていないが、ボランティアセンターは閉鎖されているが、り災証明の申請すらできていない住民もそれなりにいる。
- 既存の枠組み・手続きだけでは漏れてしまっているケースがたくさんある。エリア系・テーマ系の交流の中で、私たちの地域ではどの部分が漏れているのかを確かめ合うことが重要であり、いざというときには、そこが必要になってくる。
- 「それはどこかの団体がすることになっている」とされていて、いざというときに身動きができないことになっている場合が多いので、自治会でそれを網羅できるのか、できなければどのような連携を図るのか。いろいろ取り組まれているとは思いますが、現場情報を共有することが大事である。そのような形で生かされてほしいということだけ最後に申し上げておきたい。

- もっといろいろ議論したいところではあるが、現在の市民協働の状況についてご報告をいただき、ご意見を頂戴したところである。この動きは今後どんどん膨らんでいくと思うので、この懇話会は今回で任期が終わるが、今後も茂原市の市民参加・市民協働を膨らませていただきたい。
- (事務局 石井) 本日いただいたさまざまなご意見を踏まえて、来年度以降、引き続き取り組みを進め、充実に努めてまいりたい。本日はありがとうございました。